

**学校法人東京成徳学園
東京成徳短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

東京成徳短期大学の概要

設置者	学校法人 東京成徳学園
理事長名	木内 秀俊
学長名	木内 秀俊
A L O	金城 悟
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	東京都北区十条台1丁目7番13号

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
言語文化コミュニケーション科		85
幼児教育科		150
ビジネス心理科		100
	合計	335

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
専攻科	幼児教育専攻	10
	合計	10

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

東京成徳短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 6 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

大正 15 年の学園創立以来、建学の精神「成徳」を基に教育に取り組んできた。教授会が中心となって、教育目標の点検・明示の努力がなされ、その共有化については、意欲的に種々の方策が採られている。

教育の内容については、各学科とも教育目的に即した授業科目が開設され、専任教員が適切に配置され、単位認定についても適正な評価が行われており、短期大学にふさわしいレベルを有していると認められる。「学生による授業評価アンケート」を毎年行い、現状の分析と今後への取組みにいかすための改善に努めている。

教員組織は体制・機能ともに充実しており意欲的な教育活動がうかがえる。図書館は蔵書数・座席数・検索機能などにおいて必要な整備がなされており、随所に教育的配慮がなされ、展示会なども開催され一般にも公開されている。

各学科それぞれに教育目標を達成するため、多くの努力が払われている。特に難しい資格取得への挑戦も行われており、実績も残している。退学率の減少にも配慮がなされ、充実した相談体制が敷かれている。

学生支援については、入学前に履修モデルの説明や習得しておくべき課題を提示し、入学後の学習に役立つよう配慮している。学習以外の学生生活全般についても、環境設備の充実や教職員の配置がされており、十分な支援が行われている。

研究活動については、学内に研究グループを作り、文部科学省の大学教育高度化推進特別経費に多数採択されており、教育改善を目指した研究に活発に取り組んでいる。研究活動やそれを支える条件整備は全体的に、適切になされている。

社会的活動については、積極的なボランティア活動が展開されている。また「保育研修会」や公開講座、講演会、シンポジウムなどに地域住民も参加でき、地域を活性化する一助になっている点が評価される。

事務処理の規程なども整備され、効率化に関してもよく検討されている。

改革・改善については、短期大学設置基準が改正され自己点検・評価の努力義務が規定された平成 3 年以来、自己点検・評価を実施している。これには全教職員がかか

わり、規程・組織の整備をはじめ、自己点検・評価活動結果のフィードバックによる利用方法についても積極的な取組みがみられる。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念をより具体的に五つの教育目標として示し、これを表現した「シンボルマーク」を採用し、周知に努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 習熟度別授業、海外研修、インターンシップなど学生のニーズに応える多くの取組みが積極的になされている。
- 「学生による授業評価アンケート」を毎年行い、その結果に担当教員のコメントを付けて冊子にして公表していることはよい試みである。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 平成 15 年に完成した図書館は、斬新なデザインで、内容が充実したものである。司書がフレックスタイム制の勤務で 19 時まで開館しているので、入館者も 1 日あたり総学生数の 14% と多く、十分に活用されているようである。
- 幼児教育科において、模擬保育を通しての実践的感覚の習得のために、シミュレーションルームを設けている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学前に各学科の学習に必要な能力などについて、アドミッション・ポリシーを具体的に明示し、入学後の教育にいかしている。
- TOEIC (Test of English for International Communication) や多くの資格取得に対して積極的に学習支援している。

評価領域Ⅵ 研究

- 大学教育高度化推進特別経費への応募を推奨し、採択数も多く、また採択されなくても、特別研究費という形で支援を行い、教員の研究活動を推進している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 幼児教育科においてはボランティア活動に関するガイダンスが行われ、多くの学生がボランティアを経験している。また、地域住民が参加できる講演会、研修会、講座が開催されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成 13 年に相互評価が実施され、以来相互評価に関する規程、組織の整備につい

て努力している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスの書式を統一し、内容の改善を図る必要がある。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教員人事、推薦入試の判定に関して、教授会と「人事委員会」、教授会と入試の合否判定会議との関係が明確ではないので、学内規程を整備し、教授会と上記委員会の権限関係を明らかにすることが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

大正15年の学園創立以来、建学の精神を「成徳」すなわち「徳を成す人間の形成」と定め、80年間この精神をもとに教育に取り組んできたことは評価される。

教育理念は普遍性を有するものであるとしながらも、教授会が中心となって、教育目標の点検・明示の努力がなされている。なお、教育目的・教育目標の共有化については、一般的に考えられる種々の方策が採られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

各学科とも教育目的に即した授業科目が示され、専任教員が適切に配置されて、短期大学にふさわしいレベルを有していると認められる。

免許・資格が取得できる体制がとられ、授業形態（講義・演習）のバランスもとられている。必修・選択の区分は学科の性格によって多少異なるが必要な配置がなされている。

単位認定は、それぞれの学科で適正に行われており、学生ごとの習得単位数の確認のために本人および教員間の周知を徹底している。

「学生による授業評価アンケート」を毎年行い、その結果を担当教員にフィードバックして、現状の分析と今後への取組みにいかすための改善に努めている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織の体制・機能ともに充実している。教員数が短期大学設置基準の規定以上に配置されており、意欲的に教育活動を行っている様子が見える。

校地面積および校舎の面積が短期大学設置基準の規定を充足しており、新校舎を中

心によい環境が整備されている。

コンピュータおよびマルチメディアを設置した教室や陶芸窯の設置などの施設が整備され、教育によい環境となっている。

図書館は蔵書数・座席数・検索機能などにおいて満足のいく現代的なもので、入館者も多く、授業の参考文献や新刊図書の特設コーナーなど、随所に教育的配慮がなされたものである。展示会なども開催され一般にも公開されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

各学科それぞれに教育目標を達成しようと、多くの努力が払われている。

資格取得の支援については、特に難しい資格取得への挑戦をしており、実績も残しているのは素晴らしい。しかしこうした実績が学生募集へ反映していないのか、募集定員を二つの学科で充たしていない。

退学率の減少にも配慮がなされ、充実した相談体制も敷かれている。また、教育内容と学生の期待する内容との食い違いをなくす努力が必要な学科もあるが、キャンパス見学会や推薦入試における面接試験などを通じて、その解消に努めようとされている。説明の仕方やプレゼンテーションの方法を考えたり、入学前の教育を充実させるなど、まだ工夫の余地が残されている。

全体的に真摯な努力がなされていると判断できる。

評価領域Ⅴ 学生支援

大学案内、ウェブサイトにおいて建学の精神、教育の目的、目標などを明示することにより、受験生が当該短期大学に対する理解を深めるよう支援を行っている。また入学前に履修モデルの説明や習得しておくべき課題を提示し、入学後の学習に役立つよう進めている。

入学後にはオリエンテーションをはじめ、必修授業におけるきめ細かな履修指導や学習する上での「学び方」を身に付けるように指導している。さらに各学科で授業方法に工夫をし（習熟度別に分別、能力別クラス編成）、進度の速い学生にも遅い学生にも対応し、教育の効果を上げて高い就職率を維持している。

学習以外の学生生活全般についても環境設備の充実や教職員が配置されており、学習ならびに学生生活の上でも十分な支援が行われている。

学生募集要項で入試についての詳しい説明がなされ、入試は公正かつ正確に実施されている。

評価領域Ⅵ 研究

平均的にみれば教員の研究活動はよく行われているといえる。短期大学が教育重視の機関であることを考えると、教員間でばらつきが出るのは仕方のないところであろう。

科学研究費補助金は過去 3 年で 1 件のみであるが、文部科学省の特別経費にも多数採択されており、外部資金の獲得もできている方だといえる。この特別経費を軸としてできあがっている教員の協力体制を教育面などにも積極的にいかしていければ、さらに素晴らしい教育活動へと発展する可能性があると思われる。

経常的な研究費は平均的な額になっており、それに特別研究費が上乘せされる。成果発表の機会、教員数 35 名で紀要の発行が年に一度というのは少ない気がするが、投稿数からみると充分だという認識にあるようだ。数値的には年間平均約 24 編程度であるから、他の学会誌などへの投稿があるのだろう。

全体的にみて研究活動やそれを支える条件整備はまずまずの水準にあると思われる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

ボランティアのガイダンスの後、幼児教育科やボランティア部を中心に多くの学生がボランティアを経験し、さらに自主的にボランティアを展開している点が優れている。

言語文化コミュニケーション科では留学をする学生に丁寧な指導を行い、留学を単位認定し、加えて交付金が支給されるなど留学を推進している。

「保育研修会」や公開講座、講演会、シンポジウムなどに地域住民も参加でき、地域を活性化する一助になっている点が評価される。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長（学長を兼務）のリーダーシップのもと、理事会・評議員会など規定に沿って開催されており、監事業務も寄附行為に基づいて適切に機能している。

併設大学の子ども学部との共同事務室ではあるが、事務処理の規程なども整備され、決裁処理・事務処理・防災処理などの効率化についてよく検討されている。

評価領域Ⅸ 財務

学園広報誌を 8,000 部作成し、広く財務状況を公開している。また、主要施策の目標・経理見積などを盛り込んだ行動計画が策定されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

短期大学設置基準が改正され自己点検・評価の努力義務が規定された平成 3 年以来、自己点検・評価を実施し、改革・改善に取り組んでいる。これには全教職員がかかわり、規程・組織の整備をはじめ、自己点検・評価活動結果のフィードバックによる利用方法についても積極的な取り組みがみられる。